

令和5年度第1回小牧市いじめ問題対策委員会会議録

1 開催日時	令和6年2月15日(木) 午後1時15分から
2 開催場所	小牧市役所 東庁舎 会議室2-2
3 出席	柴田委員長、森委員、楠本委員、鈴木委員
4 欠席	吉川委員、野尻委員
5 事務局	中川教育長、伊藤教育部長、吉田学校教育課長、 采女管理指導主事、高堀指導主事
6 傍聴者	0人
7 議題	(1) 小牧市内の小中学校におけるいじめの現状 (2) いじめ事案における対応の検証<非公開>

<開会 午後1時15分>

1 開会

(吉田課長)

皆様、本日はお忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。

定刻となりましたので、ただ今より、「令和5年度第1回小牧市いじめ問題対策委員会」を開会いたします。

私は、司会を務めさせていただきます。小牧市教育委員会事務局学校教育課長の吉田です。よろしくお願いいたします。

<資料確認>

まず始めに、資料の確認をさせていただきます。

・次第

・資料1 「小牧市のいじめの現状」

・資料2 「令和5年度第1回いじめ実態調査(4月～6月末)の結果」

・資料3 「令和5年度第2回いじめ実態調査(7月～11月末)の結果」

・資料4 「学校別いじめの認知件数一覧」

・別添資料「配席表」

でございます。

不足などがございましたら、お申し出ください。

傍聴について

本委員会は、「小牧市審議会等の会議の公開に関する指針」に基づき開催するもの

でございます。

平成27年度に初めて開催されたいじめ問題対策委員会における議決事項により、個人が特定可能な議題などを除き、原則公開として開催しております。本日の議題(2)につきましては、実際に市内の小学校で起こった案件を基としております。実名等は伏せておりますが、内容から個人が特定される恐れがあるため、議題(1)については公開、議題(2)については、非公開として開催したいと思います。よろしいですか。

(異議なしの声)

異議なしとのことでありますので、議題(2)は資料や議事録も含めまして、非公開とさせていただきます。

なお、本日のこの会議の傍聴者は、ございません。

それでは開会にあたりまして、中川教育長よりごあいさつ申し上げます。

(1) あいさつ

(中川教育長)

改めましてこんにちは。本年度第1回のいじめ問題対策委員会を開催させていただきましたところ、委員の皆様方におかれましては、大変ご多忙の中、ご出席をいただきまして誠にありがとうございます。

いじめ問題につきましては、言うまでもなく本当に重大な配慮を要する事案であると私どもも認識しているところでございます。お手元に配付させていただきました資料にもございますように、令和4年度におきましては認知件数が非常に多くなっている現実がありますので、本当に緊張感をもって子どもたちの様子を観察していかなくてはいけないと感じているところであります。

本日の会の中で、様々な状況をご説明させていただいた上で、それぞれの学校での対応等が妥当なものであったのかどうかといったことを検証させていただき、今日以降の支援の中で生かしていけるようにしていきたいと考えております。ぜひ、忌憚のないご意見をいただけたらと思います。よろしく願いいたします。

(吉田課長)

続きまして、柴田委員長よりごあいさつをいただきたいと思います。よろしく願いいたします。

(柴田委員長)

名古屋大学の柴田です。本日はよろしく願いいたします。

今日はいじめの現状について具体的なデータを出していただいておりますので、それを基に、今後のあり方について、皆さんと議論を深めていければと思っております。今も中川教育長からもお話がありましたように、コロナ後の影響かと思っておりますけれども、いじめの認知件数が増えているということなど、その背景についてもできる限り探っていければと思っております。よろしく願いいたします。

(吉田課長)

ありがとうございました。

本日の出席委員ならびに、事務局職員につきましては、お手元にごございます配席表のとおりでございます。野尻紀恵委員におかれましては、今回より新たに委員をお願いしております。なお、吉川委員、野尻委員におかれましては、本日公務によりご欠席とうかがっております。

2 議題

(吉田課長)

それでは議事に移らせていただきます。議事の進行につきましては、委員長をお願いしたいと思います。柴田委員長よろしくお願いします。

議題(1) 小牧市内の小中学校におけるいじめの現状について

(柴田委員長)

議題1について事務局の説明を求めます。

<事務局より資料1、資料2、資料3、資料4の説明>

(柴田委員長)

事務局よりいじめの現状について、説明がありました。質問やご意見がありましたらお願いします。

(森委員)

学校ごとのいじめの認知件数のばらつきというところで、資料2、資料3の5番の校内いじめ対策委員会の開催数を見ると、その期間に1回開催する学校がほとんどです。中には4回、5回以上という学校もあるので、そことの関連性があるような気がして、校内いじめ対策委員会を5回以上やっている学校のいじめの認知件数というのがもし分かればお聞きしたいなと思いました。

(高堀指導主事)

いじめ対策委員会を学期に1回は必ず行っているところではありますが、期間内に複数回行っている学校と、認知件数の関連性について情報を持ち合わせておりません。ご指摘にあったように、関連性を見ていくことも視点の一つとして確認をしていきたいと思います。

(森委員)

いじめ対策委員会を複数回開催している学校は、いじめへの関心が高くて認知件数多くなるのかもしれないと思ったものですから、また何か分かれば教えていただきたい

いと思います。

(鈴木委員)

学校別いじめの認知件数について、学校別でかなり差がありますけれども、一覧表を学校にそのままお示しするというのはやっぱり難しいのでしょうか。要は自分の学校が多いのか少ないのかが正しく認識されていないということが考えられます。いじめ問題に対する感度が低いという現状があれば上げなければいけないとか、現状を認識できれば考えられるのではないかと思います。

(高堀指導主事)

学校名を出して認知してもらうことのメリット、デメリットの両面あるのかもしれませんが、学校間でばらつきがあることをしっかりと認識してもらい、自分の学校は本当にこれでいいのだろうかという意識をもってもらうことは必要だと思います。学校間格差を解消する手だての一つとして、これだけ学校間で差がある点について何らかの形で伝えることを検討していきたいと思います。

(鈴木委員)

認知件数が多い学校と少ない学校とで何か率直に違いは感じられますか。例えば子どもの学校に対する満足度のようなものが感じられるのか、何かあれば教えていただきたいです。

(高堀指導主事)

何か違いや傾向があるのかというところですが、認知件数が多いところの印象として、子どもたちと教員との関係であるとか、コミュニケーションをきちんと取ることができているという良い面はあると考えられます。しかしながら、大規模校だから小規模校だから 1000 人あたりの件数が多いとか少ないとか、はっきりとは言えないと思います。ただ、小規模校ですっと同じクラスで人間関係が固定化されている影響であるとか、例えば学年 1 クラスしかないところで、この認知件数が上がると、クラス替えがない分、より注意して観察していかなければならないといった見方は必要であると感じています。

(楠本委員)

今の学校別いじめの認知件数ですけれども、年度によって割と増加の激しい学校があります。例えば、2 番の村中小学校では令和 4 年度の 1000 人あたりの件数が 161 で、令和 3 年度から割と大きく増加しているとか、あるいは、5 番の味岡小学校ではそれほど高くなかったのが 210 となっています。もっと顕著であるのが、14 番の陶小では 100 前後だったのが 306 と顕著に上がっています。中学校でいうと、桃陵中学校がそれまでの 100 だったのが 200 ぐらいになったりだとか、或いは 29 番の光ヶ丘中

学校が 60 台だったのが 147 だったりとか、割と顕著に上がっている学校がいくつかあると思います。それはどういう要素によって増加があったのかをヒアリングすると、数字の増減だけではなくて、実際何が起こって増加となったのか、その原因をもう少し丁寧に分析できるとよいと思います。全部やる必要はないと思いますが、数字が激しく変化したところを分析されると、より調査の意味があると思いました。

(高堀指導主事)

今、ご意見いただいたように一つの数字だけを見るのではなくて、丁寧に聞き取りをして、データの関連性を明らかにする必要があると思います。もしかしたら、ある学年で急に上がっているなど偏りもあるかもしれません。急に減った学校には聞き取りをしたこともあります。校内で担当者が交代し、いじめ認知に関する言い方のニュアンスが変わっている可能性も考えられますので、注意深く見てもらっているかという注意喚起も含めて聞き取りを行っています。認知件数が増えた場合も今後に生かしていくという視点で、必要に応じて聞き取りを行っていきたいと思います。

(楠本委員)

付け加えになりますが、そういう意味でいうと資料 1 のいじめの認知件数の推移を見ると、明らかに令和 3 年、4 年と認知件数が上がっているわけです。これは先生方の認知の仕方の状況によるものなのか、それともいじめそのものが増えているのか、両方の要因が十分あると考えられますから、そこは丁寧に見ないと、判断がつきづらいいと思います。それを判断する意味でも、特徴的なところをもう少し細かく分析されるといいのではと思った次第です。

(柴田委員長)

先ほどの森委員の校内いじめ対策委員会についてのご意見や今の楠本委員の特徴的な学校の動きとか、そういったところを組み合わせると、完全に把握することは難しいかもしれませんが、いじめ自体がどれくらい増えているかとか、認知しているのか、いくつかのデータを関連付けて分析することができるのではないかと思います。もう一つ、学校規模によって顕著な違いはないという話がありましたけれども、例えば、光ヶ丘だと小学校では比較的低いけれど、中学校では上がっています。同じ地区とか地域でどうかとか学校規模でどうかとか、その辺りをすり合わせて見ていくと、認知の仕方のことなのか地区など場所による違いなどもあるのか要因分析ができるではと思いました。

(高堀指導主事)

参考にさせていただきたいと思います。ありがとうございます。

(柴田委員長)

議題（１）について、ほかによろしいでしょうか。どうもありがとうございました。

議題（２）いじめ事案における対応の検証

<非公開>

３ その他

（柴田委員長）

その他について事務局よりお願いします。

（高堀指導主事）

特にありません。

（柴田委員長）

それでは、議事については終了しました。事務局にお返しします。

（吉田課長）

委員の皆様、長時間にわたるご審議ありがとうございました。これをもちまして、今年度の小牧市いじめ問題対策委員会を閉会いたします。

<終了>